

S I P 第 3 期「先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進」 社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更について

令和 8 年 5 月 2 8 日
先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進
プログラムディレクター 寒川 哲 臣

今般、「先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進」においては、研究開発計画の一部変更が生じたため、社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更を行いたい。主な変更点は以下のとおり。

1. II. 社会実装に向けた戦略

- 日本成長戦略の 17 の戦略分野の検討課題の一つとなったことを「2. 現状と問題点」に追記（p2）。
- ドイツとの「量子を含む科学技術に関する協力趣意書（令和 7 年 6 月）」、スイス、及びシンガポールとの「量子科学技術に関する協力覚書（令和 7 年 10 月、及び令和 8 年 1 月）」に署名したことを「2. 現状と問題点」に追記（p2）。
- 「2. 現状と問題点」における「図 II 1 国内の主な研究開発投資の状況と本課題の位置づけ」に「量子インターネット実現に向けた要素技術の研究開発」を追記（p3）。
- クオルガ株式会社を量子セキュリティ・ネットワークのスタートアップとして「3. ミッション到達に向けた 5 つの視点での取組とシナリオ」の表 II -3 に追加（p19）
- ISO/IEC JTC 3（量子技術）の下部組織として設置された WG12「Quantum Computing Benchmarking」に堀部サブ PD が主査に選出されたことを「ミッション到達に向けた 5 つの視点での取組とシナリオ」追記（p23）。
- 量子人材育成シンポジウム-現在地と展望-の開催について「5 つの視点でのロードマップと成熟度レベル」、 「6. 対外的発信・国際的発信と連携」に追記(p30, p34)

2. III. 研究開発計画

- ISO/IEC JTC 3（量子技術）の下部組織として設置された WG12「Quantum Computing Benchmarking」に堀部サブ PD が主査に選出されたことを「2.研究開発に係る実施方針」に追記（p37）
- 欧州連合（EU）との連携、Q-NEKO プロジェクトの活動の具体化を踏まえ、「個別の研究開発テーマ」における「②実施内容」における予算配分額（令和 7 年度）の更新(P40, 48, 54, 58)
- 個別の研究開発テーマ」における「②実施内容」における研究開発テーマ B -2 の共同研究機関に追記（p65）
- 「個別の研究開発テーマ」における「②実施内容」における研究開発テーマ B -3 の予算配分額（令和 7 年度）の修正(p69)
- 「個別の研究開発テーマ」において、研究チーム B -3 a 及び B -3 c の研究開発責任者の所属機関名の変更（p70,72,及び 73）

3. IV. 課題マネジメント・協力連携体制

- 図IV-1 実施体制にユーザーレビュー、ステージゲート審査委員会を追記、及び B -3 a 及び B -3 c の研究開発責任者の所属機関名の変更（p121）
- 「1.実施体制と役割分担」において、寒川 PD の所属の変更(p121)、課題担当を更新(p123)

- 「2.府省連携」に量子人材育成シンポジウム-現在地と展望-の開催について記載 (p124)
- マッチングファンドに係る方針と内容の章立てを修正 (p124)

以上